

今こそ 心ひとつに



約2年ぶりの広野での花火大会。
 今、多くの方が、別々の場所に避難を強いられている。
 けれど、ふるさとを想う気持ちは同じ。
 広野町民が、広野の地で広野の花火をみることで
 復興へのきっかけになるように—
 町も町民も今こそ、心ひとつに—

約2年ぶりの花火大会。
 この花火大会がより多くの
 方の再会の場となるよう
 町としても全力で取り組
 みます。

8月11日(土)、メイン会場を広野町築地ヶ丘公園、花火打ち上げ箇所を浅見川河口とし、広野復興祈念花火大会が開催されます。
 今回の花火大会は、東日本大震災により犠牲となった住民の方々を追悼するとともに、福島第一原発事故により避難している住民の再開の場と位置づけています。また、LIGHT UP NIPPON実行委員会が主催する、東北の太平洋沿岸で、「追悼」と「復興」の祈りを込めて、一斉に花火を打ち上げるプロジェクトに広野町も賛同し、8月11日は希望の花火が打ち上げられます。



来場した子どもたち



孫のためにお菓子をつめる参加者



みかんクラブの手芸教室も多くの来場者で賑わいました



見事サッカーU23日本代表男子のサイン入りユニホームを手にした16歳の白土恵里加さん

ひろの復興市



イベント開催に先立ってあいさつをする実行委員長の鈴木さん



三郷の野菜も大好評でした



店頭に並ぶ宮崎産マンゴー



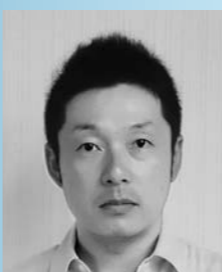
モニタリングを受けた広野産の野菜も即完売でした



ソフトクリームとフルーツを売る振興公社職員

広野町復興プロジェクト実行委員の紹介

若い世代がどんどん戻れるまちづくりをしていきます。



北郷 幸生さん

町民の方が1分でも10分でも広野町にきてもらえるようなイベントを行っていきます。



猪狩 清さん

これからの広野を背負っていく者として若い人の先頭になる気持ちで広野町を盛り上げていきます。



渡辺 克幸さん

住民目線からいろいろなおことを提案していきます。



鈴木 すみさん

広野復興プロジェクト主催の「ひろの復興市」が、7月21日(土) 広野駅南側駐車場で開催されました。
 東日本大震災および原発事故などの影響により、避難を余儀なくされている地域住民が安心して帰還でき、以前のような町内の活気を取り戻そうと復興プロジェクト実行委員会が企画。
 イベントでは、サッカー日本代表専属シェフである西 芳照さんがつくるカレー、すいとんや広野町に応援に来ていただいている派遣職員らがそれぞれ宮崎産マンゴー、三郷市産の新鮮な夏野菜を販売。
 ファナールには、日本サッカー協会から提供がありました。この日本代表サイン入りユニホームの抽選会が行われました。
 実行委員長の鈴木すみさんは、「今回イベントが開催できたのは大きな一歩。このようなイベントを継続的に開催し、復興に向かい